

ガイドブック

2011 全国広報・情報化交流会

【開催意義】

①未曾有の被害をもたらした今回の東日本大震災では、「広報・情報化」が被災地での励まし合いや、全国的な連帯の強化などに大きな力を発揮しました。震災からの復興に向けて求められる同友会運動や企業づくりのあり方と、広報・情報化の役割を考える機会とします。

②日本や地域の展望を切り拓くため、中小企業憲章・振興条例推進の運動を一層進めていくことが重要になっています。憲章・条例運動や地域活性化を進める上で大きな力となるような広報・情報化の役割を学びます。

③全国の広報・情報化の取り組みの到達点を学び、交流をはかる機会とします。

絆！原点に立ち返り、人の手と心で伝える情報発信
学び、本質を伝え、仲間を増やす

日時 2011年10月13日(木)開会 13:00
~14日(金)閉会 12:00

会場 金沢エクセルホテル東急 TEL076-231-2411

主催／中小企業家同友会全国協議会 TEL03-5215-0877

設営／石川県中小企業家同友会 TEL076-255-2323

目次

タイムスケジュールと会場案内	1
全国行事の分科会における参加者・座長・グループ長・室長の心得	2
基調パネルディスカッション（1日目）	4
第1分科会	6
第2分科会	8
第3分科会	10
問題提起（2日目）	12
個人情報保護、広報活動、インターネット活用にあたって	15
参加者名簿（同友会別）	24

参加者の皆さま

- ・会場内での撮影および録音、録画に関しましては、対象となる方の了承を得た上、対応下さい。
 - ・さらに報告文書掲載の際には、報告者の方に掲載文書にて掲載する媒体を含め確認をとった上で、掲載してください。
 - ・なお、上記以外の方法で第三者に内容を提供することはお避け下さい。
 - ・同友会の活動資料として活用する際は、「広報活動の情報の利用に関するガイドライン」にそって対応してください。
- よろしく申し上げます。
-

タイムスケジュールと会場案内

1日目 10/13 (木)

- 12 : 30 受付開始
- 13 : 00 全体会 開会 < 5 F ボールルーム >
開催地挨拶
主催者挨拶
- 13 : 10 基調パネルディスカッション
- 14 : 30 休憩・移動
- 14 : 45 分科会開始
- 第1分科会 < 5 F パインルーム >
 - 第2分科会 < 5 F エクセレントルーム >
 - 第3分科会 < 5 F フォレストルーム >
- 18 : 00 分科会終了・会場移動
- 18 : 30 懇親会 開会 < 5 F ボールルーム >
- 20 : 00 懇親会終了

2日目 10/14 (金)

- 8 : 30 全体会・分科会報告 < 5 F ボールルーム >
各分科会座長報告
- 9 : 00 全体会・問題提起
中同協 情報化推進本部長 中村高明氏
- 9 : 30 休憩
- 9 : 40 グループ討論
- 11 : 00 休憩
- 11 : 15 グループ発表
- 11 : 45 全体まとめ
- 12 : 00 閉会

全国行事の分科会における 参加者・座長・グループ長・室長の心得

中小企業家同友会全国協議会

1. 全国行事における分科会の位置づけ

全国的に大きな集会を成功させるには

- イ. 開催地同友会の献身的な努力
- ロ. 分科会の充実
- ハ. 参加者の学ぶ意欲と学ぶ姿勢がカギといわれています。

なかでも、参加者が全国行事に「参加してよかった」と思うか「あまりよくなかった」と思うかは、自分が参加した分科会の成功・不成功にかかっているといっても過言ではありません。

2. 分科会における座長・グループ長・室長の重要性

- ①分科会を充実させるには、報告内容と運営について報告者と座長が事前に入念な協議と準備を行うことが必要です。
- ②座長・グループ長は分科会テーマをよく理解し、運営に当っては適切なリーダーシップの発揮が求められます。
- ③すべての参加者に発言の機会が与えられる運営への配慮が大切です。
- ④特に、報告者が持ち時間をはるかにこえた報告をしそうになったり、一人の参加者が長時間独占し発言をするときは、座長・グループ長は、英断を持って処理することが必要です。
- ⑤座長・グループ長は、分科会テーマを深めることに注意しましょう。テーマからはずれた討論は参加者を失望させます。
- ⑥室長は、上記の5項目が円滑に運営できるように気配りをし、必要に応じて、座長・グループ長のよき相談相手になりましょう。

3. 分科会（グループ討論）で何を学ぶのか

①学び方を学ぶ

報告者の話から何を学んだかを出し合うことにより、お互いの学び方のちがいと共通点について認識し、それぞれの学び方のすぐれた点を学びます。それは人の話を聞く力、聞き分ける力を身につけることであり、他人の話をじっくり聞いて自分の責任で最大の教訓を引き出す力をつけることです。

②率直に語り合う

本音の討論とは、飾らず率直に自分の考えを述べ合うことによってテーマに深く迫りあうことです。同時に相手の立場を考え、強烈な自己主張を差し控え、お互いの発言を尊重しながら討論テーマを深めましょう。

③ノウハウではなく本質を学ぶ

ノウハウについての質問も当然出ますが、討論は経営のテクニックの問題に終始することなく、経営理念、人生哲学、人間としてのありようなど本質論にふれるようにします。経営者自身の人間的力量、総合的人間力の問題に迫れるような討論をしたいものです。

4. グループ討論の報告と座長の「まとめ」の重要性と留意点

分科会の終了に当たって、座長の「まとめ」がすぐれていれば、参加者は感動し、満足しますが、その反対もあります。またグループ討論の報告が適切なものであれば、参加者は共通の認識に立ちやすくなります。

以下のことを留意して、グループ討論の報告と「まとめ」をお願いします。

- (1) 討論の中で共通した認識・理解にいたったことはそれを確認する。
- (2) 意見・評価の分かれたものについては、そのことを明らかにして今後の研究課題とする。座長の主観で性急に結論をまとめない。
- (3) 「まとめ」にあたっては、同友会の理念に照らし報告と討論の中身を大胆に整理することが必要です。グループ討論の内容を発表する際も意見の羅列ではなく、枝葉末節に関わることは省略し、焦点をしぼって報告する。

*グループ討論のマナー

- ①全体に目を配り、テーマに沿って簡潔かつ率直に発言する。
(討論での各1回の発言は3分以内にまとめる)
- ②全員が話し手となり聞き手となるよう皆で心がけ、話の腰を折ったり、一人で発言を独占しないようにする
- ③言うべきことを言い、聞くべきことを聞き、謙虚に能動的に学ぶ姿勢で討論に参加する。

◆基調パネルディスカッション【1日目】

「絆！ 東日本大震災からの復興に向けて
～同友会としての広報・情報化の役割と意義」

- コーディネーター 加藤昌之氏 中同協広報委員長
／愛知同友会副代表理事 (株)加藤設計 代表取締役
- パネリスト 八坂 豊氏 奈良同友会代表理事 (株)奈良ロイヤルホテル 代表取締役
村上智彦氏 福島同友会事務局主任・郡山事務所長
松井清充氏 中同協事務局長

東日本大震災後、各同友会で同友会の真価を発揮し、自主・民主・連帯の精神で震災からの復興の先頭に立って、各地で精力的な活動が展開されています。なかでも e.doyu やホームページの活用で会内の情報共有や調査の迅速化により、同友会としての発信力が強化され、対外的にも注目されました。被災地では e.doyu による会員間の安否情報の共有や復興へ向けた手書きの FAX 新聞を配信し、被災地外ではアンケート機能で即座に会員の影響調査を行い、緊急アピールを発表するなど、注目を集めました。

地域の期待が高まる中、同友会として広報・情報化の機能を強化し、地域に同友会理念と運動を発信する取り組みをすすめていくにはどうするか、本基調パネルディスカッションを通じて、分科会へ向けた問題提起を行います。

MEMO

1) 基調パネルディスカッションの趣旨説明

2) 各パネリストからの取り組みの報告 (各 10 分)

- 被災地・福島での取り組み (3.11 当日からの発信とこれまでの広報情報化に関わる流れ)
- 奈良同友会としての取り組み (同友会の広報・情報化活動の取り組みと震災後の対応)
- 中同協としての取り組み (3.11 以降の中同協としての広報・情報化にかかわる取り組み)

3) 同友会として情報を集約して発信するとはどういうことか

- 被災地での緊急時対応と発信・・・なぜ e.doyulD を全会員に?なぜ手書き新聞?
組織率や企業づくり (例会や小グループ、経営指針など) の運動は、復興へ向けた立ち上がりに影響しているか
- 被災地外として、支援活動の取り組みは同友会にどのような意義があったか。調査や会内、会外への発信を行うことが組織の強化につながるか
- 中同協としての広報・情報化にかかわる問題意識とこれまでの提起
- 特に震災後、中同協として広報・情報化の面で大切にしてきたこと。全国ネットワークでの共有と情報の整理

4) 今後、同友会の広報・情報化の活動はどうあるべきか

同友会が地域や中小企業から期待されている発信とはそれぞれの立場で、地域で

5) まとめ (5 分) (加藤)

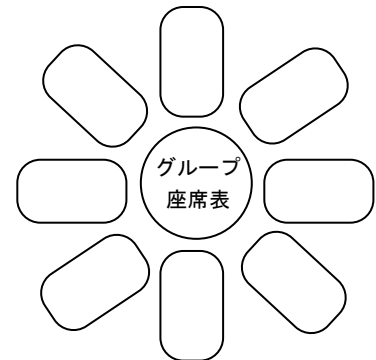
【第1分科会】

企業を救い、一人ひとりに寄りそう広報 ～ 震災後の岩手同友会の情報発信・共有の在り方から学ぶ

- 報告者 菊田 哲 氏 岩手同友会事務局長
- 座 長 北村 卓也氏 (株)やまざき 代表取締役
京都同友会代表理事 中同協広報委員会副委員長
- 室 長 徳木 忠美氏 (株)ストレート 代表取締役 石川同友会広報・情報化委員

岩手同友会では、震災直後から会員経営者と同友会の動きをホームページや e.doyu で紹介し、全国の支援を広げ、マスコミからの取材も殺到。カメラにもその様子を収め、岩手同友会総会時のスライドショーは感動と復興への決意を広げました。そこにはテレビや新聞では伝えられない生の声、現状、そして会員一人ひとりに寄り添う情報発信の在り方がありました。「一社もつぶさない」を覚悟に、命を、そして企業を守る。本分科会では岩手同友会の震災直後からの情報発信・共有から、同友会運動・活動の本質を学びます。

MEMO



【タイムスケジュール】

- 14:45 開会 (室長)
座長挨拶・分科会趣旨説明
報告者紹介
- 14:50 報告開始 (60分)
- 15:50 休憩 (10分)
- 16:00 グループ討論 (80分)
- 17:20 グループ討論発表 (15分)
- 17:35 報告者の補足報告 (15分)
- 17:50 座長まとめ
- 17:55 連絡事項・アンケート記入
- 18:00 閉会

討論テーマ

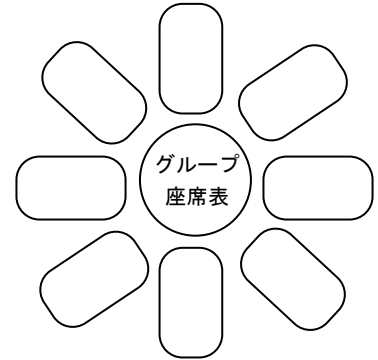
【第2分科会】

中小企業憲章・振興条例制定と地域活性化における広報・情報化の役割 ～福岡同友会の震災影響調査とマスコミ発表、政策要望対応、他団体や行政との連携～

- 報告者 川畑 義行氏 福岡同友会事務局長
- 座長 貞池 龍彦氏 (株)アビリティ・キュー代表取締役
福岡同友会広報情報化本部副本部長 中同協広報委員会副委員長
- 室長 松永日出男氏 (有)ユーアンドゆ 代表取締役 石川同友会金沢駅西副支部長

福岡同友会は、東日本大震災に際し、e.doyu も活用していち早く「東日本大震災の経営への影響」について緊急調査を実施。525通のアンケート結果をもとにして、福岡県商工部および九州経済産業局に政策要望を提出しました。この機敏な動きは、マスコミ各社からも注目を集め、新聞やテレビなどで大きく報道されました。また中小企業憲章制定1周年の記念行事として、福岡同友会と福岡県中小企業団体中央会の共催で、九州経済産業局の後援、中小企業庁の協力も得て「中小企業憲章大学習会」を開催するなど、他団体・行政などとも連携しながら憲章・条例運動に積極的に取り組んでいます。福岡同友会の実践を通して、中小企業憲章・振興条例制定と地域活性化における広報・情報化の役割を学びます。

MEMO



【タイムスケジュール】

- 14:45 開会（室長）
座長挨拶・分科会趣旨説明
報告者紹介
- 14:50 報告開始（60分）
- 15:50 休憩（10分）
- 16:00 グループ討論（80分）
- 17:20 グループ討論発表（15分）
- 17:35 報告者の補足報告（15分）
- 17:50 座長まとめ
- 17:55 連絡事項・アンケート記入
- 18:00 閉会

- (1) 福岡県と福岡同友会の概要
- (2) 2004 ビジョンで打ち出した方向
- (3) この間、取り組んできた事
- (4) 震災発生以降の動き
- (5) 今後の課題
- (6) まとめ

討論テーマ

- 1、憲章、振興条例など同友会運動をどのように広報をしていますか？
- 2、これから、どのように情報創造に取り組めますか？

【第3分科会】

青年経営者の絆とネットワーク強化—志を繋ぐ情報共有

同友会に青年組織が生まれてから40年がたちました。青年経営者全国交流会、全国青年部代表者会議などの全国的な交流や、近畿圏や北陸など各同友会青年部間での連携も深まっています。そして、中同協における全国青年部組織の検討を進める上で、e.doyuを活用し、またFacebookなどを通して、日常的にも情報が共有されてきています。本分科会では、富山・兵庫・愛知からの事例を学び、青年経営者が絆を深めている新しい情報共有のあり方を学びます。

《事例①》

●報告者 福崎秀樹氏 富山同友会青年部会部会長 (株)フクール 代表取締役

- ・第39回青全交 IN 富山での情報発信
- ・北陸3県同友会青年部例会での絆の強化

《事例②》

●報告者 伊集院 雅人氏 兵庫同友会青年部幹事 明石加工サービス(株) 代表取締役

- ・近畿圏青年部の絆の強化、近畿圏合同例会から事例

《事例③》

●報告者 鈴木 良博氏 愛知同友会青年同友会連絡協議会広報担当副代表
オネストン(株) 常務取締役

- ・愛知青同・連協の取り組みの報告

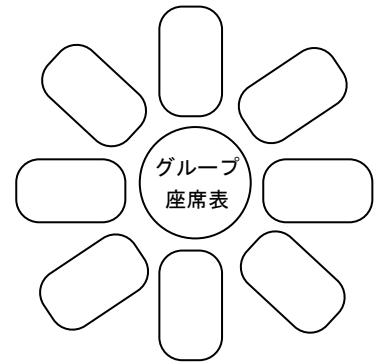
《事例④》

●報告者 吉田 令氏 愛知同友会青年同友会連絡協議会渉外担当副代表
(有)よしだ建設 代表取締役(兼座長)

- ・青年部の全国的な情報共有—Facebook 立上げ、中同協の青年組織

●室 長 高柳 俊也氏 (株)エクスペッションズ 取締役 石川同友会広報・情報化委員

MEMO



[タイムスケジュール]

- 14 : 45 開会 (室長)
座長挨拶・分科会趣旨説明
報告者紹介
- 14 : 50 報告開始 (60分)
- 15 : 50 休憩 (10分)
- 16 : 00 グループ討論 (80分)
- 17 : 20 グループ討論発表 (15分)
- 17 : 35 報告者の補足報告 (15分)
- 17 : 50 座長まとめ
- 17 : 55 連絡事項・アンケート記入
- 18 : 00 閉会

討論テーマ

◆問題提起【2日目】

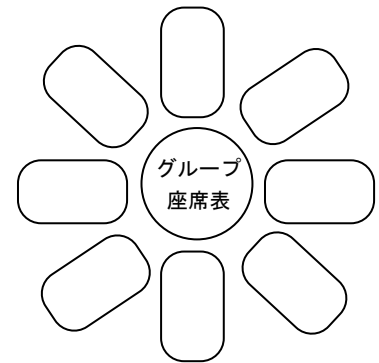
「学び、本質を伝え、仲間を増やす広報・情報化とは」

●中村 高明氏 中同協副会長、情報化推進本部長

／福岡同友会代表理事、(株)紀之国屋 代表取締役会長

1日目の議論を受けて、同友会として企業を変え、憲章・条例運動などをつうじて地域を変えるために、仲間を増やす広報・情報化とは何かさらに深める問題提起を行い、1日目と同じグループで討論します。

MEMO



【タイムスケジュール】

- 8:30 開会
- 分科会報告（各座長）
- 9:00 問題提起
- 9:30 休憩・グループ調整
- 9:40 グループ討論（80分）
- 11:00 休憩
- 11:15 グループ討論発表
- 11:45 全体のまとめ座長まとめ
- 11:50 連絡事項・アンケート記入
- 12:00 閉会

討論テーマ

**広報・情報化は組織力を高め
最強の組織を作るための戦略の一つ**

1. 会外に同友会の存在を知ってもらう

(1) こんな会があるとは知らなかった

同友会理念と運動を発信する。そして情報収集。

- ・懇談会と広報紙の送付
行政，マスコミ，高校，大学，金融機関(信用金庫・日本政策金融公庫 等)
- ・中小企業団体中央会と中小企業憲章の学習会
- ・ホームページSEO対策
- ・e.doyu景況アンケート、各種アンケート等情報の創造とマスコミ発表

(2) 地域経済の疲弊

- ・被災地からの復旧・復興

- ・大都市以外の地域はユデカエル
海外移転・空洞化のさらなる進行，大きな地殻変動

- 中小企業憲章と中小企業振興条例の学習会
行政と一体となった仕事づくり，地域づくり

2. 同友会を充実させるため様々な面に取り組んで来ていることが会員に伝わっていない

(1) 小グループブロック活動への伝達

- ・e.doyuの活用
- ・理事会決定事項のダイジェスト版

(2) ホームページに例会報告

(3) 専門委員会のネットワーク強化

(4) 年代層別ネットワーク強化

- イ. 横断的青年部組織のネットワーク
将来の語り部育成
e.doyu, facebookの活用

- ロ. ベテラン会員60才以上のネットワーク
語り部の復帰

3. 広報・情報化の企業経営と不離一体

同友会	自社への落とし込み
<p>【増】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.入会のご案内パンフ 2.ホームページ 3.JC卒業生などのリストアップとダイレクトメール 4.同友会を知る会 5.例会ご案内ちらし 6.行政との懇談 7.高校・大学との懇談, J o b w a y 8.金融機関との懇談 9.マスコミとの懇談,ちらし記者室配布 <p>【強】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.総会議案書 2.会報・中小企業家しんぶん 3.e.d o y u, DOYU NET 4.同友SNS, 経済交流 5.小グループ・ブロック活動 6.会員訪問と情報収集 7.充実した学びの例会 ホームページにアップ 8.「人を生かす経営」「企業変革支援プログラム」 	<ul style="list-style-type: none"> ・会社案内 ・ホームページ ・新規開拓リストアップとダイレクトメール ・商品説明会 ・商品ちらし、イベントちらし ・行政に経営理念・企業活動内容説明 ・新規採用 ・金融機関に決算説明と経営指針説明 ・イベントちらし記者室配布 ・経営指針書 ・社内報, 回覧文 ・社内ネットワーク ・新規開拓 ・委員会活動 ・固定顧客訪問 ・社員共育・研修 ・社員共育・研修